

わくわく中部

中部教育局社会教育担当より
令和7年11月7日発行



写真: ナナカマド(倉吉市関金町)

11月の体験活動イベント

子どもたちの体験活動を応援します!

9日(日)

くらよし国際交流フェスティバル2025

(伯耆しあわせの郷)

9日(日)

倉吉淀屋 秋を楽しむ「わいわいコンサート♪」

(倉吉淀屋)

開催中～16日(日)

町制施行20周年記念特別展 ～北栄町の歴史～

(北栄みらい伝承館)

1日(土)～30日(日)

三朝温泉 和紙灯

(三朝温泉街)

ちゅうぶくんが行く!

中部のヒト・モノ・コトを訪ねて



高城コミュニティセンター(倉吉市)



国 府川のほとり、高城コミュニティセンターに行ってきました。

この日は年に1回行われている、3泊4日のセカンドスクールの初日でした。

セカンドスクールに参加したのは久米小5・6年生の女子11名。参加者の皆さんの仲間づくりの活動をしました。男子の参加者がいなかったのが残念でしたが、地域の大人の方も、時々一緒に参加しながら、みんなで協力して楽しく活動ができました。

地域の大人の方も一緒に楽しく活動をされる姿に、セカンドスクールの取組を大事にされていること、地域の子どもたちを大切にされていることを感じました。



家族と離れて3泊4日を過ごすことは、子どもたちにとって、一生モノの思い出となるとも貴重な経験となります。

セカンドスクールを通して、地域の子どもたちを大切に思う大人の気持ちが伝わることで、子どもたちが地域を大切に思う気持ちが育まれることにつながりますね。



「カップの遠足」では、頭の上の紙皿を落とさないように慎重に歩きました。



活動終了後に集合写真を撮りました。みんないい表情です!

Chance

Change

Challenge

ちゅうぶくん

～〇〇の秋！～

や
っ
と
秋
に
な
っ
た
ね

秋
とい
え
ば
「
芸
術
の
秋
」

ほ
く
は
「
ス
ポ
ー
ツ
の
秋
」

ほ
く
は
や
っ
ぱ
り
「
食
欲
の
秋
」
だ
ね

サンマ、焼き芋、柿、栗、
なし、ぶどう・・・
秋の味覚、全部食べるぞ！



CHA³プログラムとは、中学生と地域の大人・大学生が少人数のグループで、働き方や生き方等のテーマに沿って自由に話す、中学生のための教育プログラムです。

中学生にとって大学生（近い将来のモデル）、地域の大人（遠い将来のモデル）と話すことで、将来の夢や目標、地域への愛着を育む「ふるさとキャリア教育」の機会となり、また、大学生や地域の大人の皆さんにとっても中学生と話すことで新たな気付きや学びの機会となります。

“CHA³”とは？

- ・地域の方やちょっと身近な大人（大学生）と出会う機会（Chance）
- ・多様な価値観と出会うことで自分を変える（Change）
- ・少し先の目標を持ち、様々なことに挑戦する（Challenge）

東伯中学校CHA³プログラム

10月9日（木）

東伯中学校1年生、地域の大人、鳥取看護大学の学生、合計210名以上の参加者で、CHA³プログラムが賑やかに行われました。参加者は中学生・地域の大人・大学生とバランスよく7～8人ずつ、28グループに分かれてトークしました。私は、欠席された方の代わりに、地域の大人として参加しました。

はじめのトーク内容は「好きな給食のメニュー」でした。同じグループの中学生は3人中2人が「カレーライス」と答え、給食でカレーライスを食べたばかりだと教えてくれました。私が書いた「スタミナ納豆」を知らない大学生がいて、スタミナ納豆を知っている大学生が、スタミナ納豆の魅力を上手に説明してくれました。約10分のトークタイムがあっという間に感じるほど、最初から盛り上がりしました。

「住んでいる地域の魅力」「住みたい町ってどんな町」など、全部で8つの内容をグループでトークしました。地域の大人だけではなく、中学生たちも、自分達が住んでいる琴浦町を、とても大事に思っていることが伝わりました。

同じグループに、なかなか意見が言えなかった中学生がいましたが、最後の感想で「楽しかった」と言ってくれて、意見は言えなくても、その子なりに楽しんでいただけたとわかり、とても嬉しい気持ちになりました。

最後に参加者全員で、記念撮影をしました。グループで語った達成感と同時に、地域の皆さんの一体感があり、CHA³プログラムの素晴らしさを身をもって感じる事ができました。



たくさんの大人の方と語り合うことは、中学生たちにとって、多様な価値観に触れて、自分の視野を広げる、貴重な経験となりますね。

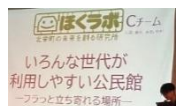


【あとがき】「ほくらボ」

北栄町の、ほくらボ最終発表に行ってきました。ほくらボ（ほくい未来ラボ）は、調査研究し、学び、修正しながら、納得のいくものを導いていく、PBL（Project Based Learning）の手法で、「まちづくりに参加する新しい形」です。

「新たな公民館の活用」のテーマに沿った内容で、5つのチームが公民館の活用について、練り上げたアイデアを発表されました。印象的だったのは大学生チーム。「ほくいギルド」というゲームの世界のような、ワクワクする新しい仕組みの提案でした。他のチームも、新たな公民館の活用を通して、北栄町の未来が明るくなるような提案をされていました。

中央公民館大栄分館がリニューアルされることもあり、近い将来、今回の提案が現実化されるかどうか、楽しみです。



誰かに何かをしてもらうのではなく、自ら学び、自ら作り上げていく「ほくらボ」は、地域をよくしようという主体性を高める、素晴らしい取組ですね！

